

TOPICS

APVS2009 in Tsukubaの開催

第4回アジア養豚獣医学会 (APVS) がつくば国際会議場で10月26日～28日に開催されました。

アジア養豚は伝染病の防疫など、アジア地域全体として取り組まなければならない多くの問題を抱えています。APVSはこうした問題の解決を図り、生産性の高い養豚ができる環境をつくるための研究発表や情報交換の場として、日本および韓国の養豚獣医師らの呼びかけにより2001年に設立され、2年に1度大会を開いています。韓国、フィリピン、中国(武漢)で開催され、第4回は日本での開催となりました。

フィリピンの大会(2005年)で、第4回大会は日本での開催が決定したことを受けて、APVS2009実行委員会が設立されました。日本豚病研究会、(中)日本養豚開業獣医師協会、日本養豚学会、日本SPF豚研究会の共催で行い、APVS2009の大会と同時に日本養豚学会を実施することに決まり、日本豚病研究会等の役員として当所職員も実行委員として協力しました。

過去3回の大会が「外資系製薬会社の宣伝が目立ち、学術的な面

が霞んでいる」といった反省点を基に、学術的な大会にしようという委員会での決意で、メインテーマを「養豚獣医診断技術向上のために」としました。

基調講演1:「アジア各国の養豚事情と問題疾病」の中で、韓国、フィリピン、中国、日本、タイ、ベトナムの代表者からの発表がありました。

基調講演2:「口蹄疫と豚コレラの広域清浄化を目指して」の中で、日本(3名)、タイ(2名)、台湾、韓国の代表者の発表がありました。

基調講演3:「養豚産産を脅かすPRRS/PCVADの現状と診断」の中で、4名の先生の講演がありました。

学術的な大会とするために、「繁殖」、「PRRS、PCVAD、ウイルス性肺炎」、「Research Topics(ワクチン、免疫)」、「食品安全」、「生産システムとバイオセキュリティ」、「腸管感染症」、「細菌性肺炎」、「診断」の8つのワークショップを設

けました。同時に4つのワークショップを実施しました。

生産者セミナーでは、「生産性を上げるためのチャレンジ」と「養豚経営で成功するための将来戦略」の2つのセミナーが2日に分けて実施されました。

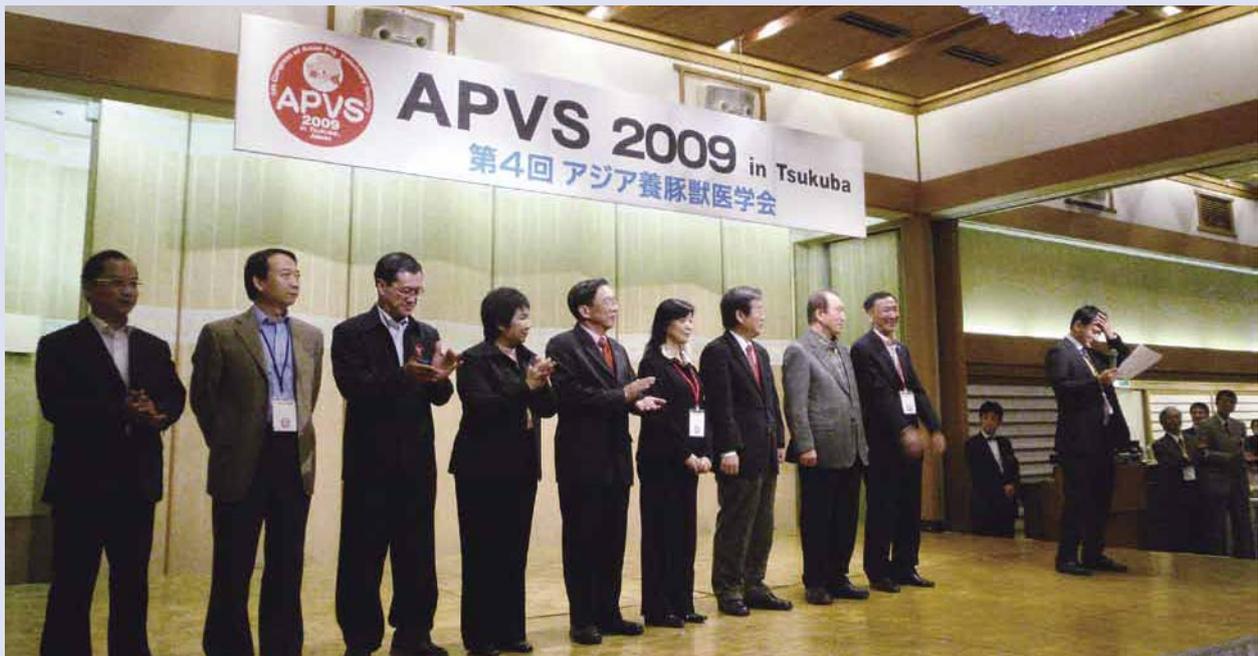
ポスター発表には280の演題が集まりました。コアタイムにはポスターの前で、質疑応答が行われました。優秀なポスターに対して、学生賞5本、ポスター賞13本が選出され、閉会式で賞状と記念品が授与されました。

企業セミナーとして、製薬メーカー、飼料メーカー等による14の講演会が開かれました。また、多くの企業・団体が本学会を支援し、加えてボランティアとして、会場の運営の他、野点、ハンドベル、つくば太鼓、阿波踊り等、多くの皆さんが大会を盛り上げていました。

初日の26日は台風並の雨と風で、屋上のアドバルーンが20枚ほどの石を壊したトラブルと、救急車1台を呼ぶ騒ぎがありましたが、行事を滞りなく終了できました。

(動物疾病対策センター

疾病診断室長 久保正法)



つくば市内ホテルでの懇親会。石川理事が主なメンバーを紹介。